

TOKYO JC NEWS

volume.2 2019 OCTOBER

JCI



公益社団法人東京青年会議所 4月例



東京 2020 特別委員会「万国フェス」

事業レポート

政治行政政策室
教育政策室
共生社会政策室
経済政策室

SDGs 政策室
国際政策室
東京 JC2020 特別委員会

INTERVIEW

第34代理事長 小島 陽一郎
第47代理事長 枝見 太朗



わんぱく相撲全国大会 レポート



TOKYO JC NEWS

2019 OCTOBER

volume.2

CONTENTS

事業レポート

政治行政政策室 ▶ 1

(政治行政政策委員会／大田区)

教育政策室 ▶ 2

(教育政策委員会／千代田区／世田谷区／荒川区／板橋区)

共生社会政策室 ▶ 4

(共生社会政策委員会／中央区／文京区／目黒区／北区)

経済政策室 ▶ 6

(経済政策委員会／台東区／渋谷区／豊島区)

SDGs 政策室 ▶ 7

(SDGs 政策委員会／新宿区／杉並区／練馬区)

国際政策室 ▶ 8

(国際政策委員会／港区／品川区)

東京 JC2020 特別委員会 ▶ 9

わんぱく相撲全国大会レポート ▶ 10

Interview ▶ 11

●第34代理事長 小島 陽一郎 先輩

●第47代理事長 枝見 太朗 先輩

REPORT

事業レポート

2019年東京青年会議所では、6つの政策室を組織しました。
政策室には、政策委員会と23地区委員会がそれぞれに配置され、
政策室のテーマをもとに各委員会での事業を開催して参りました。
それぞれの事業の成果をレポートいたします。

政策室一覧

政治行政政策室

教育政策室

共生社会政策室

経済政策室

SDGs政策室

国際政策室

政治行政政策室

若者の政治への無関心を打ち破り、未来を自ら選択するため、「政治へ参加」する意識を向上させることを目的としています。



●「シチズンシップ」のすすめ
～模擬請願で学ぶ社会参画～
開催 6/7・27・28 参加 282名

詳しくは
コチラ!



を広げていきます。

若年層の主権者意識の低下に対し、選挙権取得より一段階早い中学生教育の段階から根本療法として「模擬請願」を実施しました。

地域や社会の課題をより身近に捉えてもらい、グループワークで、自分の意見を持ち、多様な意見を聞き要望書へとまとめ区長へ届ける、という民主主義疑似体験の提供ができるました。

次年度以降も継続して運動

政治行政政策委員会 若年に民主主義体験を

事業レポート①



詳しくは
コチラ!



●おおた防災フェス
開催 7/14
参加 508名

「日常の中で防災に関する行動を自主的に起こすこと」を目的とした防災フェスを開催。子どもを含め一緒に楽しみながら防災知識の取得や体験、交流できる内容として、災害マップの確認や共有、避難経路・場所の確認、屋内設備の対策、防災訓練への参加の必要性、何もないことに対する改善意識が醸成され、防災に対する意識の向上が見られました。

大田区委員会 防災意識の向上に寄与

事業レポート②



教育政策室

多様な教育資源をつくり、連携し合うことで、一人ひとりのライフスタイルに合った学びを選択できる環境の構築が目的です。



詳しくは
コチラ!

- SDGs志セミナー
開催 6/23 参加 19名
- SDGsアイデアセミナー第1弾
開催 7/6 参加 16名
- 起業家教育イベント Startup Hub Tokyo
開催 8/24・25 参加:計176名
- SDGsアイデアセミナー第2弾
開催 8/31 参加 24名

事業レポート①

新時代の教育法を広める 教育政策委員会

「子どもたちが社会課題の解決をする」ことで新時代に必要な自主性・創造性・社会性を育む新たな教育手法「E.S.D」を広め、新時代の教育の仕組みを創ることを目的に4種類のプログラムを開催（各企業で継続）。文部科学省・環境省の後援を得られたほか、今後は教育企業やそのほかの専門分野企業、コラボやママ団体との連携なども進めていきます。

千代田区委員会

事業レポート②

次世代教育に読書は不可欠

読書の重要性を子育て世代から広め、親子での読書習慣化の一歩を踏み出してもらうことを目的に、読書の楽しさや価値を実感し、読書の有意義性を改めて伝える講演会を実施。

区内の家庭・学校・地域を巻き込んで「次世代を生き抜く人材」の



詳しくは
コチラ!



- AIとの共存社会に向けて
～未来を創る親子読書～
開催 7/14 参加 257名

育成に読書が寄与することを伝え
ることで、行動の一歩につなげるこ
とを目指しました。



事業レポート③

世田谷区委員会

コミュニケーション力を 幼い頃から育成

社会を生き抜くために必要な非認知能力のひとつである「コミュニケーション能力」は総務省の調査結果の中でもとくに重要性が高いとされています。世田谷区委員会ではこの点に着目し、家庭だけではなく地域全体でコミュニケーションを図る風土や仕組みを作り、子ども達のコミュニケーション能力を向上することを目的とした事業を実施しました。

事業当日は「N.P.O法人 親子

コミュニケーションラボ」代表の田野ひかり氏による講演や、子ども向けブースの設置などを通し、保護者以外の初めて会う大人とコミュニケーションを取る「大人との関り方」を学ぶ機会を創出しました。事業を通じ、多くの参加者に今回の仕組み作りの重要性を理解してもらうことができました。

この事業は、幼児期の子ども達が社会を支える30年後の社会を作るための事業と認識し、この取り組みが世田谷から日本全国

事業レポート④

荒川区委員会

遊びの場を増やす
イベント開催

『体育・教育・德育』を通じて地域と家庭を繋げる遊びの機会を増やすことを目的とした事業の一環として、親子間のコミュニケーションツール「学習ブック」の配布を目指し、多くの参加者を集めるためにフェスティバル形式で実施。多くの一般動員を得られ、学習ブックを多数配布することができたほか、各小学校か

詳しくは
コチラ!

●あらかわアカデミー
&フェスティバル
開催 8/11 参加 2100名

らの問い合わせもありました。
今後は各小学校の個別訪問を行

い事業の理解促進は測ると同時に、事業の理解促進は測ると同時に、各小学校の個別訪問を行

に、学習ブックの使い方や有用性について説明を行っていくことで、普及を推進します。

に広まっていくことにより、30年後の日本が「明るい豊かな社会」になると考えて引き続き取り組んでいきます。

23区へ広めるべく事業を拡大、事業や地域へ教育負担の分散を啓蒙する事業を2018年より実施。
ユネスコの「教師の日」を板橋区で広める活動から2019年には

事業レポート⑤
板橋区委員会

学校への負担の分散化
終了後に継続する別団体への事業
移管も行いました。

10月5日の「教師の日」に向け7月12日には「先生ありがとうフォーラム」を開催、同時に同月いっぱい板橋区役所6階にて「ありがとう展示会」を開催しました。



●ありがとうフォーラム 他
開催 7/12 参加 154名
●ありがとう展示会
開催 7/1~31 参加 200名

詳しくは
コチラ!

●地域で育むこころの森
～世田谷こころの森プロジェクト～
開催 8/10 参加 91名





共生社会政策室

社会生活の中で支える側・支えられる側の垣根をとりはらい、だれもが活躍できる社会を実現することを目的とします。



詳しくは
コチラ!

●共生社会政策推進運動
～EverydayついDAY～
開催 3/1～7/31(計17回)
参加 計230名

少子高齢化が進む現代で必要なのは、誰もが役割を持ち活躍できる社会を、地域住民で助け合う「互助」によって実現すること。子どもができれば大人もできるという発想から、子どもが高齢者の買い物をする『ついDAY運動』と、介護される高齢者の気持ちを大人に経験することで、「他人事」から「我が家」への意識改革を推し進めました。今後も周りを巻き込み展開します。

少子高齢化が進む現代で必要なのは、誰もが役割を持ち活躍できる社会を、地域住民で助け合う「互助」によって実現すること。子どもができれば大人もできるという発想から、子どもが高齢者の買い物をする『ついDAY運動』と、介護される高齢者の気持ちを大人に経験することで、「他人事」から「我が家」への意識改革を推し進めました。今後も周りを巻き込み展開します。

事業レポート①

共生社会政策委員会

「ついDAY運動」で
意識改革



詳しくは
コチラ!



●「心の手を繋ぎませんか」
開催 7/6 参加 134名

健常者が障がい者への理解を深め、手を差し伸べるための意識変革と、実際に行動する人を増やすことを目的に、ユニバーサルボッチャや、障がい者雇用、点字、手話を体験できるイベントを開催しました。

今後は行政や関連団体との連携でより拡散できるように広報を行っては、事業をスポットで終わらせないために、参加者の方がイベント後に日常的にできる具体的な行動を伝えていき、促進につなげています。

事業レポート②

中央区委員会

障がい者理解の
体験イベント



詳しくは
コチラ!



●「心の手を繋ぎませんか」
開催 7/6 参加 134名

2018年に区内で発生した女児虐待死事件の発生を受け、地域の課題として具体的な解決策を示す運動を起こすべく調査をした結果、浮かび上がった「子育て中の父母」の苦しみ。これを地域の課題と捉え、助け合う地域風土を醸成して児童虐待問題の解決に繋げるための事業をスタートしました。子育て中の父母に児童虐待の原因の周知を行い、児童虐待の発生予防に繋がる意識を醸成することを目的として活動を行いました。

子育てに対する父母の自己肯定感の低さが児童虐待の発生原因という有識者の助言から、本年は中目黒GTプラザ商店会と共に、自己肯定感を高めるワークショップや、中目黒GTタワー前広場にて虐待の原因と身近な予防策の講演、子育てする親へ地域が感謝する気持ちを伝えるブースなどを擁したフェスを行いました。

事業レポート③

目黒区委員会

児童虐待の撲滅の第一歩

事業レポート④

文京区委員会

声掛けで障がいの壁を超える

障がいの有無に関わらず助け合う社会の実現を目的とした事業を展開して3年目の本年は、「障がい」に対する理解を深め、両者の交流を促進する当初の目的からさらに踏み込み、参加者が障害者差別の解消法として「合理的配慮」を自律的に行えるように導く活動を行いました。

「温故知新」のスローガンのもと本来魅力の詰まっている北区の魅力を再発信する事業を展開。発信の仕方を変えることで元来ある北区の良さに気付くきっかけとしてもらうため、これまで使用されたことのない音無親水公園を舞台に選出。子供から高齢者まで興味をもってもらえて、地域活動に参加してもらいややすい方法として、和楽器演奏家



●北区の魅力再発信
開催 7/13 参加 2000名



詳しくは
コチラ!

事業レポート⑤ 北区委員会

地元の良さを再発信

や日本舞踊家を招いたフェス、ライ

トアップ、子ども向けのクイズイベン

トなども実施。行政との連携や他

団体との協力体制の構築などを実現したほか、全市民が地域活動に参画する機会を創出できました。



●こころのバリアフリー
推進プロジェクト2019
開催 7/6 参加 322名



視覚障害を持つテノール歌手や肢体障がいを持つ演奏家のライブ、車いす・アイメイトの体験会のほか、パネルディスカッションなどを通じ

て、互いに声を掛け合う重要性を共有、日常的な声掛けの促進のために「こころのバリアフリーマーク」を発表し、配布しました。

親・街・区が子育ての楽しさや大変さ、助け合いの必要性を共有し、子育てへの感謝を伝えることで地域の父母の子育てに対する肯定感を上げていくことを長期的な目的とした事業です。



●児童虐待撲滅事業～パパママバースデー～
「親になってくれた、あなたへ！」
開催 8/10・8/24 参加 1000名





経済政策室

経済成長を阻む問題を解決するために、イノベーションと環境を整えことで民間企業が力を発揮できる社会の実現を目指します。



●オープン・イノベーションによる社会課題解決事業
創出プロジェクト「Link de Change!プロジェクト」
開催 5/26・7/28 参加 90名

詳しくは
コチラ!



社会課題を解決するビジネスの創出を目的に、年間を通じて「オープン・イノベーション」の活用を推進。各地区的地域課題を題材に、行政・企業をはじめ多種多様な専門家がアイデアを出し合ってビジネスを構築する社会実験を行いました。

地区ごとにチームに分かれ、5月から2ヶ月間グループワークを行い、7月には成果発表会を開催。23区から8地区が参加し、6地区的地域課題を解決するビジネスの事例が生まれました。

経済政策委員会

社会課題の解決事業

事業レポート①



●下町から世界へ ～紡ごう！たいとう！～
開催 6/22 参加 2000名

詳しくは
コチラ!



観光客の増加への対応を念頭に、上野・浅草という観光地を擁する台東区が抱える新旧住人の溝という課題を解消することを目的とした「台東アンバサダー」の推進事業を実施。区民の台東アンバサダーの認知を上げるイベントも行いました。

交流機会が生まれ、新旧住民で構成された台東アンバサダーが地域で活躍できる仕組みを構築することで、地域住民が主体的に社会に参画し、互助していく地域の実現を目指します。

台東区委員会

地域問題解決の第一歩

事業レポート②



●MANABUYA
～起業家輩出のための好循環都市渋谷～
開催 6/9・29 参加 2025名

詳しくは
コチラ!



低い数字に留まる日本の「起業率」の課題を解決することを目的に、起業家を輩出・育成する土壤を構築する事業の一環として、若年層が最先端の成長産業を通じてビジネスについて学び、それを経験できるイベントを開催。

ビジネスの戦略の作り方、お金の集め方、プレゼンの仕方、ビジネスモデルの作り方など、実務の最前線で活躍する講師から直接学びを得ることができ、学校では体験できないことを学べる貴重な機会の提供となりました。

渋谷区委員会

未来を生む学びを提供

事業レポート③



●地域で育む多世代交流 ～プチ祭りから大祭りへ！～
開催 8/17 参加 220名

詳しくは
コチラ!



新旧住民の隔たりをなくし、地域住民のつながりを作る「地域の祭り」に参加しやすい環境づくりとしてお祭り体験を実施。地域情報を得られていない新住人に情報を発信することで、つながりを持つきっかけを提供しました。今後は、地域情報の発信を届けるSNSの活用とあわせ、SNSに不慣れな旧住民へ講習会などを通じて利用法などを広め、SNSによる地域の活性化を推進していきます。

豊島区委員会

地域に参画できる仕組みづくり

事業レポート④



SDGs政策室

都内の自治体と地域を結ぶ役割を担う東京都に働きかけ、SDGs達成の積極的な政策が実現することを目的としています。



サマーコンファレンスSDGs PARK
開催 7/20・21



詳しくは
コチラ!

SDGsを市民や企業に対し周知する活動に従事し、市民がSDGsに身近に触れる目的としてきました。そのため行政への積極的なSDGs推進政策の提案をし、SDGsを軸に様々なパートナーシップを締結し、市民参画を進める活動を行いました。

そのため行政への積極的なSDGs推進政策の提案をし、SDGsを軸に様々なパートナーシップを締結し、市民参画を進める活動を行いました。

SDGsを市民や企業に対し周知する活動に従事し、市民がSDGsに身近に触れる目的としてきました。そのため行政への積極的なSDGs推進政策の提案をし、SDGsを軸に様々なパートナーシップを締結し、市民参画を進める活動を行いました。

SDGs政策委員会

事業レポート①

新宿区委員会

事業レポート②



●共生祭
開催 8/17 参加 264名

詳しくは
コチラ!



在留外国人が都内一多い新宿区から多様な国籍の住民が連携・協働する多文化共生社会を醸成するという目的の一環として、災害時に外国人が集まる施設を核としたコミュニティと、周辺の日本人コミュニティが平常時も協力関係を築くことを目的にイベントを開催。

各企画によって多文化の理解と共生の大切さの意識が約80%も上がり、今後も継続的な連携を図る意識を醸成できました。

在留外国人が都内一多い新宿区から多様な国籍の住民が連携・協働する多文化共生社会を醸成するという目的の一環として、災害時に外国人が集まる施設を核としたコミュニティと、周辺の日本人コミュニティが平常時も協力関係を築くことを目的にイベントを開催。

地域再生の仕組みを創出

事業レポート③

杉並区委員会

事業レポート④



●すぎなみマッチングプロジェクト
～選ばれ住み続けられる街づくり～
開催 7/28 参加 35名

詳しくは
コチラ!



子育て支援に力を入れ、待機児童がゼロになるなど、共働きもできる環境が整っている杉並区の街の魅力をより多くの若者世代に知つてもらい、「住み続ける街」として選ばれる仕組み作りを目的とした事業の企画として、区の後援を得た「街コン」を開催。人と人、人と街をマッチングすることで、選ばれ住み続けられる街づくりに貢献することを目指しました。また、「街コン」を通じて地域の魅力を発信、他団体との協力関係を築くことを目指しました。

子育て支援に力を入れ、待機児童がゼロになるなど、共働きもできる環境が整っている杉並区の街の魅力をより多くの若者世代に知つてもらい、「住み続ける街」として選ばれる仕組み作りを目的とした事業の企画として、区の後援を得た「街コン」を開催。人と人、人と街をマッチングすることで、選ばれ住み続けられる街づくりに貢献することを目指しました。また、「街コン」を通じて地域の魅力を発信、他団体との協力関係を築くことを目指しました。

人と人、人と街をつなぐ



●Me-病?! 発見フェスティバル
開催 7/7 参加 600名

詳しくは
コチラ!



「未病」という概念の認知のため、練馬区公式キャラクターねり丸が記載されたシールを配布。「としまえん」というアミューズメントパークを舞台とすることで、多様な性別年代の方に参加してもらおうことができました。

「未病」という概念の認知のため、練馬区公式キャラクターねり丸が記載されたシールを配布。「としまえん」というアミューズメントパークを舞台とすることで、多様な性別年代の方に参加してもらおうことができました。

練馬区委員会

事業レポート④

区民の健康を守る事業

事業レポート④



国際政策室

オリンピックを翌年に控えた東京を全市民が参画する国際都市に変えるべく、文化と交流をテーマに国際化を推し進めます。



●第1~4回
Challenge up Tokyo
開催 6/22・7/14・7/27・9/4



詳しくは
コチラ！

国際政策委員会
事業レポート①

ビジネスを国際化の入口に

日本と海外のビジネスや労働環境の違いを理解し、相互の価値観を学ぶことで、多文化共生を早める仕組みをつくることを目的に、ビジネスマッチングの機会を創出しました。

在住外国人との交流機会がなく、実態を知らないことが原因で共生が進まない現状を打破する方法として、最も需要があるビジネスを通しての交流機会を設け、相互理解を深める事業を行っています。ビジネスマッチングということで予定より多くの参加者を得られました。



●港区アートフェス ~Go Global Arts For SDGs~
開催 7/14 参加 3028名



詳しくは
コチラ！

港区委員会
事業レポート②

世界を知る交流イベントに

区内の国際交流と相互理解の促進およびSDGsの認知度向上を目的に、言語を超えたコミュニケーションツールであるアートを媒介にフェスを実施。世界の社会問題をSDGsによって解決する方法を描いた絵を世界中から募集し、約100カ国・1000枚の絵の展示会を行いました。

アートを通してSDGsを学べるコンテンツとして11月にはアムステルダムで開催が決定するなど、世界中で運用される事例となりました。



●世界と繋がる ~子どもたちのわ!~
開催 7/7 参加 330名



詳しくは
コチラ！

品川区委員会
事業レポート③

国際感覚の育成のために

高次元な相互理解が進む国際都市の実現と、児童保護者が国際社会や国際交流に継続的に関心を持ち、国際的に活躍できる人材を育成することを目的とした事業の2年目として、児童・生徒が多く参加するイベントを開催。1年目と比較して保護者の動員も増加、関心や意識の低下が起こる前に継続的して国際社会を意識する機会の創出ができました。

次年度継続事業であり、国際的な活動の情報発信を継続的に行っていきます。



東京JC2020 特別委員会

東京2020大会中に東京23区全域で国際交流拠点を市民や各国と展開するために、各国・地域団体との連携強化を図る事業、プレ事業をそれぞれ実施。

東京JC2020年の行動計画策定に向けて

オリンピック・パラリンピック東京2020大会開催を最大限に活かし、東京23区全域で国際交流の拠点を市民とともに展開することを目標に、東京JCの2020年の行動計画を策定。そのために、必要となる各国・地域団体との連携および関係づくりや、プレ事業の実施を行っています。

国際交流の拠点では、自身の国のPRや文化紹介をしたい各国と、地域団体、大学生が協働して、その国を取り上げた事業を23区それぞれで実施することを目指しています。多くの市民が参加する国際交流の拠点を展開するため、各大使館などには、説明だけでなく実際に協働してPRする機会として、駒沢オリンピック公園を舞台とした「万国フェス2019」を4月に開催し、8000人の市民が訪れ、各國からも市民からも好評を博しました。さらに本年10月以降には、プレ事業を行い、2020年につなげていきます。

各国との関係構築や東京JCの行動計画について、都知事や東京都からも共感を得ました。その結果、東京オリンピック競技大会主催の各國オ

リンピック委員会参加のイベントでも東京JCの行動計画をPRする機会を得られ、今後さらに、よりインパクトがあり、市民参加につながる事業を行うため、協力体制を築きながら事業を進めていきます。

事業レポート

計画事業への賛同者の獲得

2020年の東京JCの行動計画の設立と、その計画につなげるための各国・地域団体それぞれとの関係づくり、および各国と各団体の関係づくりの促進のため、大会期間中に23区全域で行う事業のモデル提示のための「万国フェス2019」を開催しました。

当日は、27カ国に及ぶ参加各国の文化や食事、ファッショントレンド、遊びが体験できるブースが40以上展開され、いずれの国のブースにも多数の市民が訪れました。また、ダンスやDJによる音楽の特設ステージ、大学生の協力によるスライムづくりブース、特設ボルダリングなどのコンテンツが提供。家族連れも多く参加し、大盛況でした。

多くの市民が来場・参加する姿を示すことで、各國・各地域団体との関係を深め、東京JCの2020年の行

動計画への参加を促す効果を得ることができ、参加した大使館

からは「これまでのどのイベントよりも多くの市民にPRできた」

より多くの市民にPRながら、「今まで東京JCと関係性がなかつた国を含め、東京JCと一緒に行動しよう」という意欲を持ったもえたほか、未参加の国に対しても訴求材料を作ること

ができました。



●万国フェス2019(4月例会)
開催 4/28 参加 8000名



わんぱく 相撲 全国大会

レポート

勇気、礼節、感謝の心を胸に
子どもたちの健全育成を目指す

予選を勝ち抜いた 強豪たちによる熱戦

8月4日、第35回を数える「わんぱく相撲全国大会」（男子）が開催されました。全国200地区33000人から予選を勝ち上がった小学4～6年生が覇を争う全国大会で、小学生の相撲大会では最大規模のものです。

「わんぱく相撲」は、遊び場の少ない東京の子どもにスポーツの機会をより多く与え、心身の鍛錬と健康の増進を目的として、1977年から行われている取り組みです。1985年8月4日に「わんぱく相撲全国大会・新国技館落成記念大会」として第1回大会が開催され、本年はそれ以来初の両国国技館以外での全国大会として、墨田区総合体育館で行われました。

わんぱく相撲全国大会には、元横綱の貴乃花閥をはじめ、現大関の豪栄道閥、そのほか多くの大

相撲力士たちが、小学生時代に出場・活躍しています。

本年も大会テーマである「勇気・礼節・感謝」～心にいつもわんぱくピース!!!～に則り、330名の出場選手達による熱い戦いが繰り広げられました。

新たな歴史となる
女子の全国大会が
今年ついに開催！

わんぱく相撲の長い歴史の中で、今年初めてわんぱく相撲の女子の全国大会が開催されました。会場には葛飾区奥戸総合スポーツセンターの土俵が用いられ、全国の予選を勝ち抜いた170名の女子選手たちが男子選手に引けを取らない迫力ある取組を行いました。

多數のメディアが取材に殺到するなど大会は大盛況に終わり、来年以降も女子の全国大会が継続して開催されることも決まっています。

Interview

70年の歴史を誇る東京JCの過去の偉業を振り返り、
未来につなげていくための歴代理事長対談の第二弾。

今回は80年代、90年代を知るふたりの歴代理事長の話をお聞きして、
現在の東京JCが進むべき道を探ります。



「時代の先を行く
提言を」
第47代理事長
枝見 太郎 先輩



「本音の議論こそ
組織の原動力」
第34代理事長
小島 陽一郎 先輩

提言を世の中に 届かせる組織だ

—35年前に今社会を予測で
きていましたよね？

35周年の未来予測は「少子
高齢化」「経済の成熟（変化）」
「国際化」。そのときは、誰も
体験していなかつた高齢化社会モ
デルをスウェーデンに学びに行つたた
り、政府の行政改革の応援活動
を行つたり、様々な活動をしてい
ましたよ。国鉄の民営化にも東
京JCは関わつていましたね。

—大きな活動ですね

いろんな委員会で議論してや
るべきことが見えたら、どんどん
活動していた。東京JCは商
工會議所の青年部のような存在
になつていつたから、社会にインパ
クトを与える活動をしました。キッ
シングジャー元国務長官を講演
のために呼んだら、首相が会談
を申し込んできたり。新聞で取
り上げられることも意識して活
動していましたね。

—会員も多かつたですよね
私の時代の東京JCは、経済

界の次代の経営者が集まる団体

だつたから、人数が多いとそれ
だけ影響力はあつたことは確か。

「数は力」なのは今と変わら
ない。だから、大事なのは世の中

に東京JCの主張が届くように、
社会を変えたいと思っている人が
どんどん仲間になることだと思
う。東京JCはそんな歴史があつ
て、より多くの人に知つてもらえ
る活動ができるんだからね。

社会に求められる 組織であるために

—今と昔の違いは？

当然ではあるけれど、社会情
勢、とくに「経済」の仕組みが
変化したことが大きい。昔は、
企業のオーナー子息が会社を繼
ぐ前に「社会を変える」という
意識を持って活動する場で、人
間として磨かれていた。でも、
今の企業は世襲制ではないから、
本業で社会を支えることができ
るようになつた人がメンバーにな
る、個々人のやりたいことをト

る。となると必然的に加入年齢
も昔に比べて高くなり、活動期
間も短い。であれば、その期間
に何をすべきか考え、主体的に
動くべきでしょう。

—主体的に動くためには？

自分がやりたいことを考え、
提案し、議論して、煮詰めるこ
とですね。昔は顔色を窺つたり
しないで「これをやりたい」「こ
こが変だ」と口に出したら、「面
白いやつだ」と目をかけられたり
しましたよ。組織として必要な
のは、個々人のやりたいことをト

コトソニ議論する場を用意するこ
とですね。

—東京JCで何ができる？

社会事業と「不足」を
解消するためには、
「不足」が多いけど、「不足」
が起きない社会にするためには、
という一歩先を見据えた提言を
できるのが東京JCだと思う。
その意識がある人は是非入つ
て活動してもらいたいですね。

詳しくは
コチラ！



詳しくは
コチラ！





痛み・不調・健康維持専門院

肩

腰

膝

施術で
楽になる

身体の痛み・しびれ・だるさ、気軽にご相談ください！

原因の9割が『身体の歪み』にあるんです！

骨盤の歪みや背骨の歪みが原因で身体の不調や
痛みの原因になっています。

当院で姿勢を分析し、根本からお身体の改善
すべき施術プランなどをご提案させて頂きます。
痛みがなかなか取れない方、歪みが気になる方
まずは自分の身体を知ることから始めましょう！



LINE 予約受付中！



ゆうしん整骨院 代々木上原

受付時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	●	●
午後 15:00~21:00	●	●	●	●	●	●	●	●

骨折・脱臼・捻挫・挫傷・打撲

☎ 03-5738-1577

東京都渋谷区上原 3-4-1 フレスカ代々木上原 2 101





- 品質はそのまま
- リース残債があっても大丈夫

- 国内メーカー
- 5社を取り扱い

 **不動産会社**
A社
(1台)

リース料
印刷代 56,800円
月々  **32,500円**
トータル
42%
削減

 **税理士事務所**
B社
(1台)

リース料
印刷代 34,200円
月々  **26,200円**
トータル
23%
削減

 **設計事務所**
C社
(5台)

リース料
印刷代 238,000円
月々  **168,000円**
トータル
21%
削減

 **上場企業**
D社
(30台)

リース料
印刷代 989,200円
月々  **665,400円**
トータル
32%
削減

まずは無料で見積りを

ご用意頂くとスムーズです!
①リース契約書 ②印刷代金請求書

 **Valleader**
株式会社バリーダ

**東京
本社**

TEL 03-4400-6188
FAX 03-5724-3303

**福岡
支社**

TEL 092-600-4582

第35回 わんぱく相撲全国大会

「勇気・礼節・感謝」 一心にいつもわんぱくピース!!!

開催日：2019年8月4日（日）午前9時開会 会場：墨田区総合体育馆

主催：日本相撲協会

JCI Junior Chamber International Tokyo
公益社団法人 東京青年会議所

後援：スポーツ庁・警察庁・東京都・墨田区・日本吹送協会・読売新聞社

（公社）日本PTA全国協議会・（公社）日本青年会議所・（公財）日本相撲連盟

協賛：株式会社アイダ設計・高松建設株式会社・アース製薬株式会社・株式会社日動研園業

携帯ジャパン日本興業株式会社・株式会社ダイハツ・株式会社紀文食品・ライオン株式会社

（一社）日本建設業連合会・株式会社吉井・ウェルライフグループ株式会社日冠

株式会社喜代村・株式会社やおきん・丸屋万年堂

満員御礼



ごちござつや

【出場方法】公式ホームページ (www.wakaba.jp)にてお住いの地域の予選大会をお探し頂き、お問合せください。

